

調と移動ド

楽典和声講座 #04 ～ 音程をスライドしてみよう

今回扱う内容は……

1. 移調 ～ 幅を変えずに主音を動かす
2. 調号と臨時記号 ～ 調性判断の基礎
3. 関係調 ～ 調の親戚
4. 調色 ～ 調のイメージ
5. 移動ド ～ 主音を基準に呼び替える

1.移調 ～ 幅を変えずに主音を動かす

楽典和声講座 #05 調と移動ド ～ 音程をスライドしてみよう

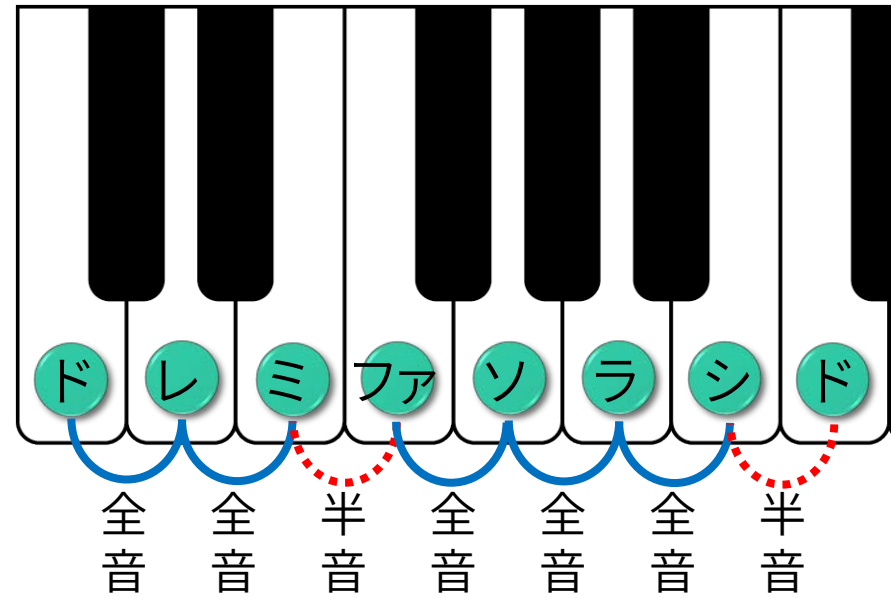
主音はなんでもいい!

- [復習] スケール = 音の幅の積み重ね
 - ✓ 初めの音(主音)から次の音までこの幅、次はこの幅……という決まり
 - ✓ 和音やメロディは、原則としてスケールの中の音だけを使う
 - 使える音に制限をかけるイメージ!
 - ✓ 例: 長音階・短音階(自然・和声的・旋律的)
 - 長音階は明るいスケール
 - 短音階は暗いスケール
 - ✓ スケール = 幅なら、初めの音(主音)はCでなくてもよいのでは……?

〔復習〕長音階



「長音階.mp3」

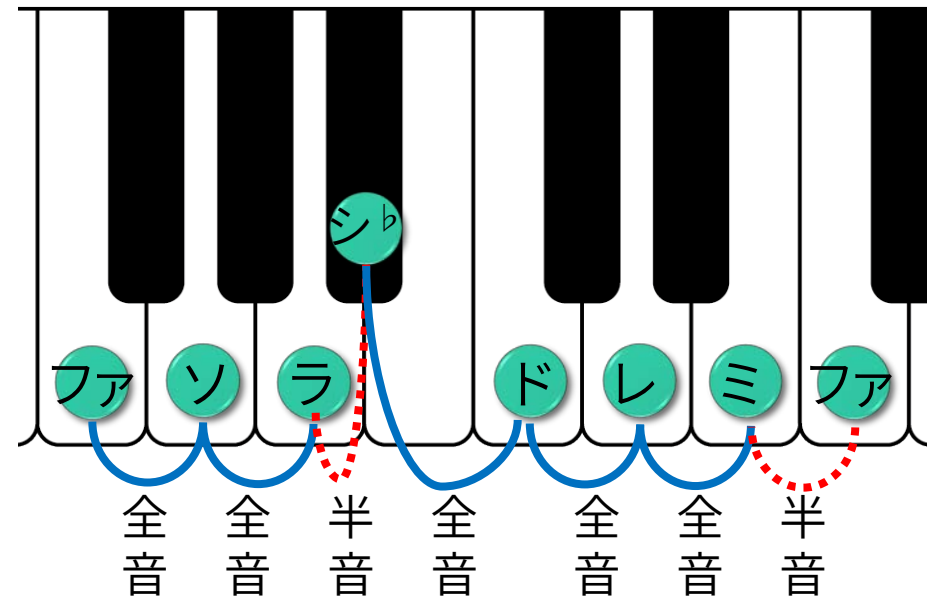


- 言わずと知れた「ドレミファソラシド」
 - ✓ 明るい「雰囲気」を持った音階
 - ✓ 音の幅は「全全半全全全半」

Fを主音とする長音階



「F-dur.mp3」



- 例えば、Fから数え始めるとこうなる
 - ✓ 音の幅は変わらず「全全半全全全半」
 - ✓ 黒鍵を1つ使っているが、明るく聴こえる

移調

- スケールの幅を変えず、主音だけ動かすこと
 - ✓ ほぼ全てのスケールで可能
 - 〔発展〕半音音階などは、移調しても「意味がない」
 - ✓ つまり、移調したスケールを呼び表すためには以下の2つが必要
 - スケールの名前(例:長音階)
 - 主音(例:F)

長調(dur)と短調(moll)

➤ 音階の呼び方

- ✓ 長音階を用いた曲 = 長調の曲
- ✓ (自然)短音階を用いた曲 = 短調の曲
- ✓ ドイツ語では長調をdur(ドゥア)、短調をmoll(モル)という
- ✓ 主音と併せて調の名前を呼び表す
 - durのときは主音を大文字、mollなら小文字とする慣習がある
 - 例：Fが主音の長調 = F-dur, Eが主音の短調 = e-moll
 - 第3回では、長音階はC-dur、短音階はa-mollのみを扱っていた

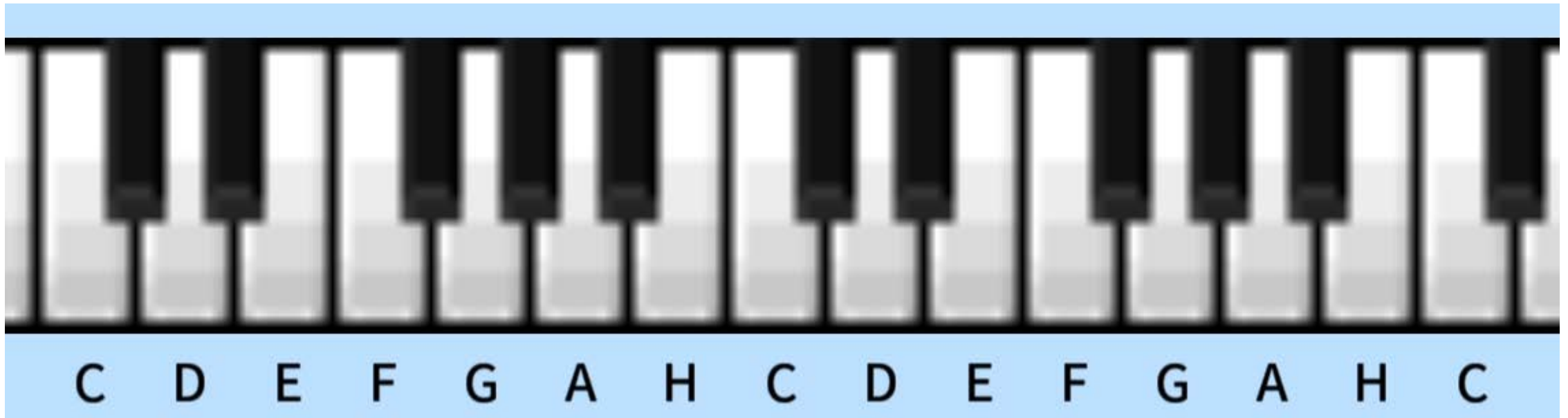
〔発展〕 その他の調の呼び名

- 英語では、長調をMajor、短調をminorという
 - ✓ C-durをC-Major(シーメジャー)、a-mollをA-minor(エーマイナー)という
 - ✓ ふつう、日本ではコードネームに使う(第7回参照)
 - ✓ ドイツ語と混用するとややこしいので注意
- 日本音名を用いることもある
 - ✓ C-durをハ長調、a-mollをイ短調という
 - ✓ 音楽全体ではこちらのほうが一般的だが、声楽ではドイツ語を使う

2.調号と臨時記号 ～ 調性判断の基礎

楽典和声講座 #05 調と移動ド ～ 音程をスライドしてみよう

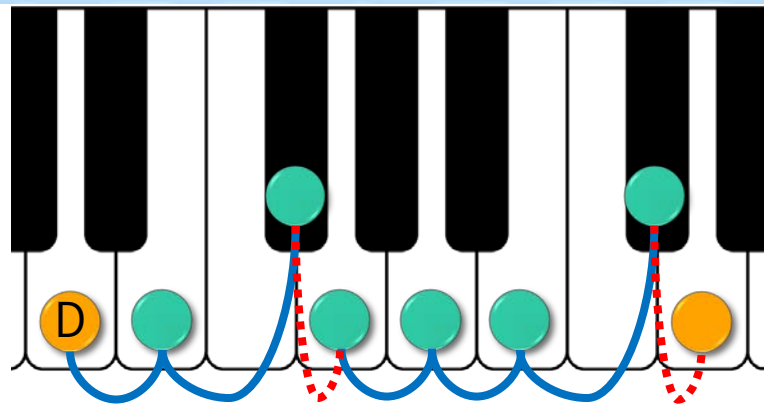
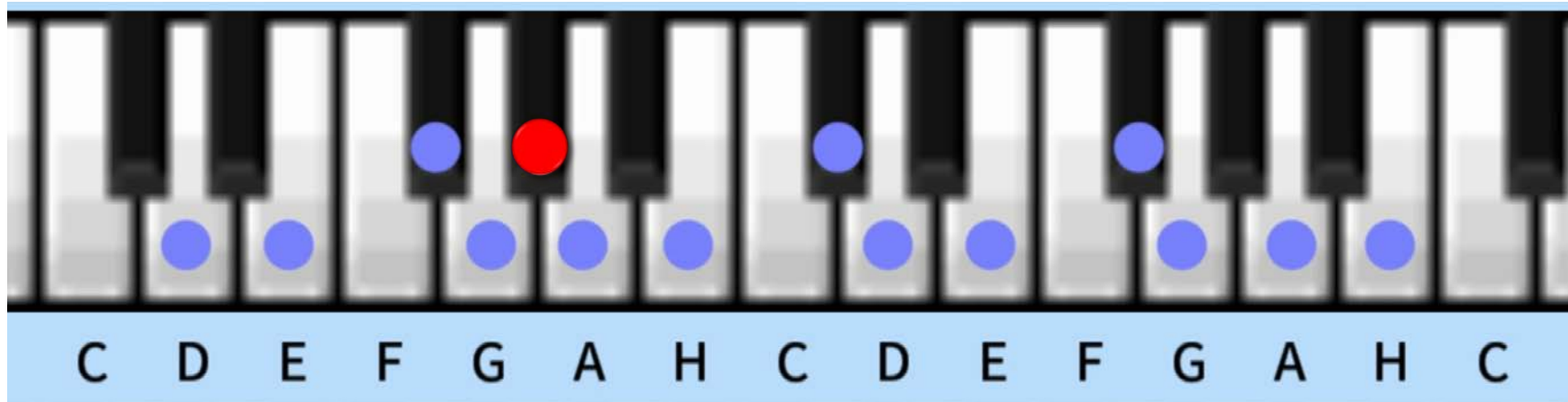
譜例5-1



「譜例5-1.mp4」

- まずはこの曲を聴いてみよう
 - ✓ 特に、鍵盤のどこを使ったかに注目すべし

譜例5-1の調性判断



全 全 半 全 全 全 半

- 譜例5-1は、D-durに似ている
- ✓ 実際、1回出てきた**Gis**以外はD-durに一致
- ✓ これを「D-durの調性がある」という

譜例5-1の楽譜



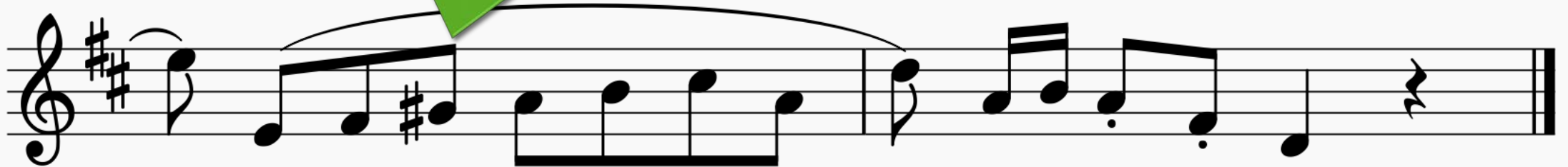
この調号はD-durを表す!

確かに、D-durではFがFis、CがCisになっていた

臨時記号は調から外れた音を表す!

確かに、D-durにGisの音はなかった

3



〔まとめ〕 調号と臨時記号

- 調号 = その曲の調を表す記号
 - ✓ 調号と調とは一対一に対応する
 - ✓ つまり、調号を見ればその曲の調がわかる!
 - ✓ もっと言えば、調号の＃や♭の「個数」だけで調がわかる!
- 臨時記号 = 調から外れた音(例外)を表す記号

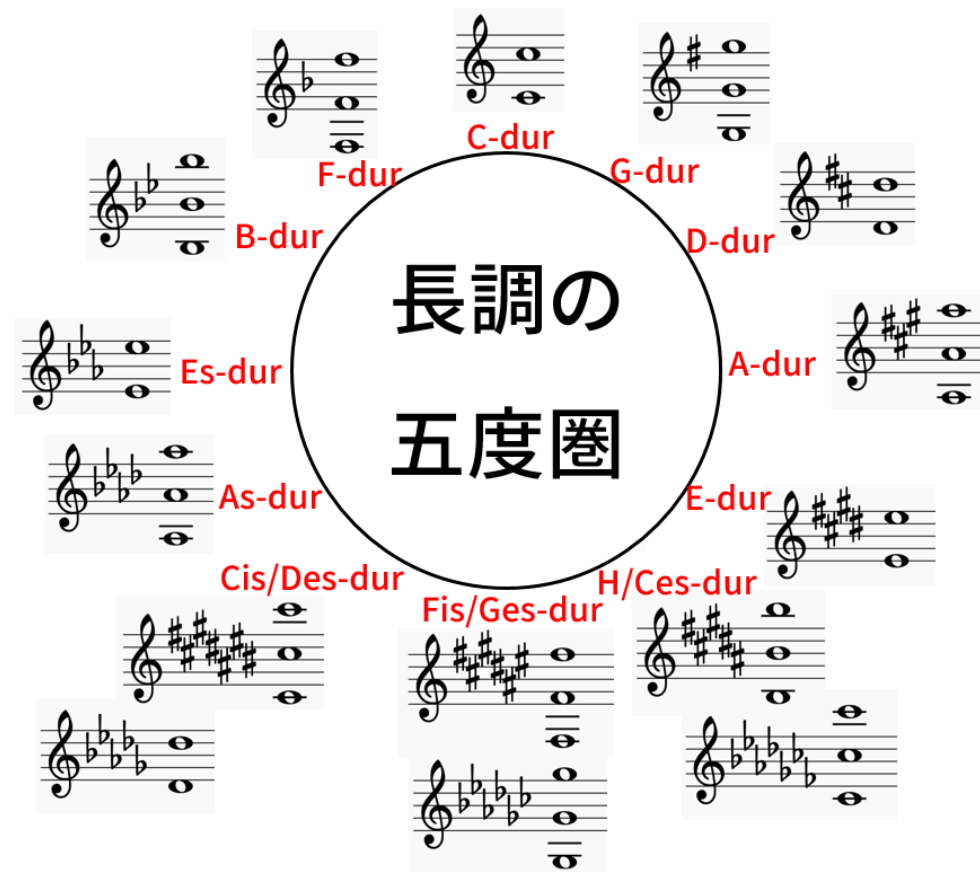
長調の五度圏

➤ 長調の全てを並べた図

- ✓ 時計回り : # 増える・♭ 減る
- ✓ 反時計回り : # 減る・♭ 増える
- ✓ 全音符は主音を表す

➤ また、その名の通り……

- ✓ 時計回り : 主音が完全5度上がる
- ✓ 反時計回り : 主音が完全5度下がる



調号の読み方

- つまり、調号は次の手順で読める!
 - ✓ 調号なし = C-dur
 - ✓ # の数だけ、Cから完全5度上に進む
 - ✓ ♭ の数だけ、Cから完全5度下に進む
 - ✓ (たどり着いた音) - dur と言えばいい!

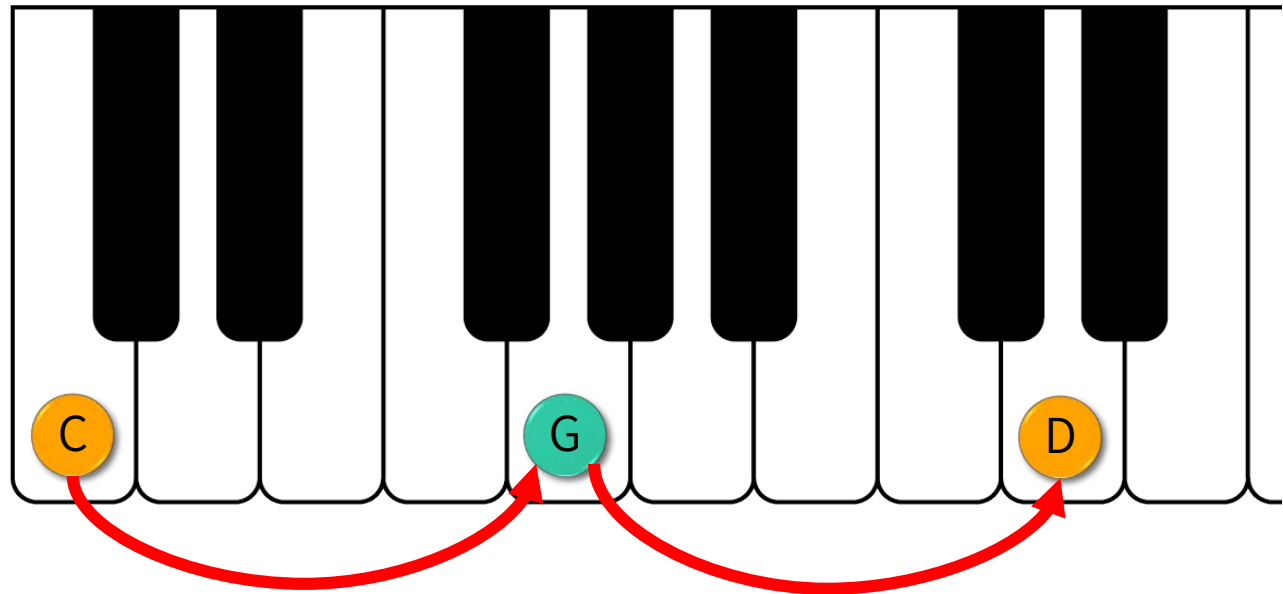
〔例〕 調号の読み方

➤ 例：# 2つの調は？

✓ Cを起点に完全5度上に2回進む

• C → G → D

✓ これは「D-dur」だ！



3.関係調 ～ 調の親戚

楽典和声講座 #05 調と移動ド ～ 音程をスライドしてみよう

調号の読み方

- 調同士には関係がある
- 関係調 = 特に強い関係があるもの

※縦に読んでください

名称	説明	例1	例2	例3
主調	基準となる調・元の調	C-dur	a-moll	F-dur
下屬調	完全5度下の調	F-dur	e-moll	B-dur
属調	完全5度上の調	G-dur	d-moll	C-dur
同主調	主音が同じで長短が異なる調	c-moll	A-dur	f-moll
平行調	調号が同じで長短が異なる調	a-moll	C-dur	d-moll

特に重要

平行調

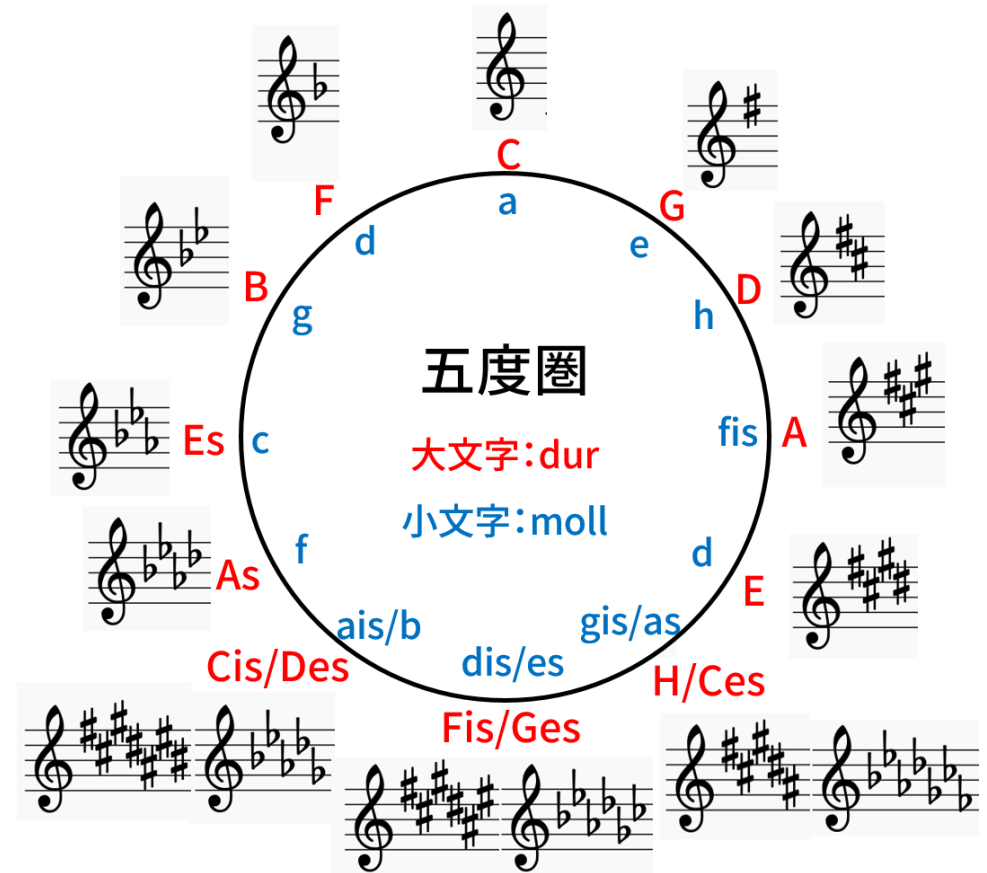
- 調号が同じで、その長短が異なるもの
 - ✓ 例:C-durとa-mollは平行調同士
 - ✓ C-durもa-mollも白鍵しか使わない → 調号に#も♭もない!

ちなみに、長調で始まって、平行調の短調に行って、長調に戻って終わるのが、ポップスなどでありがちなパターンです。

平行調を考慮した五度圏

- 長調・短調の全てを並べた図
 - ✓ 長調の平行調は、短3度下の短調
 - ✓ 短調の平行調は、短3度上の長調

本講座の五度圏はト音記号で書いてありますが、
ヘ音記号でも# ♭の数だけ見れば同じです。



4.調色 ～調のイメージ

楽典和声講座 #05 調と移動ド ～ 音程をスライドしてみよう

調にも雰囲気がある!

- スケールは曲の雰囲気を定めた
 - ✓ 例: 都節音階・琉球音階・ジプシー音階、長音階・短音階
 - ✓ C-durもa-mollも白鍵しか使わない → 調号に#も♭もない!
- 調にもそれぞれの雰囲気がある
 - ✓ 例: D-durはDeus(神)の調と呼ばれ、宗教音楽でよく使われる
 - ✓ 調のもつイメージを「調色」という

調色の例

感じ方には個人差があります

独調名	日調名	調色	独調名	日調名	調色
C-dur	ハ長調	王道	F-dur	ハ長調	平和
c-moll	ハ短調	悲劇	G-dur	ハ短調	軽快
D-dur	二長調	神秘	A-dur	二長調	楽観
d-moll	二短調	崇高	a-moll	二短調	諦念
E-dur	ホ長調	喪失	B-dur	ホ長調	明朗
e-moll	ホ短調	荘厳			

参考サイト：[音楽マメ知識 調の特性](#)

5.移動ド ～ 主音を基準に呼び替える

楽典和声講座 #05 調と移動ド ～ 音程をスライドしてみよう

調に属する音の役割

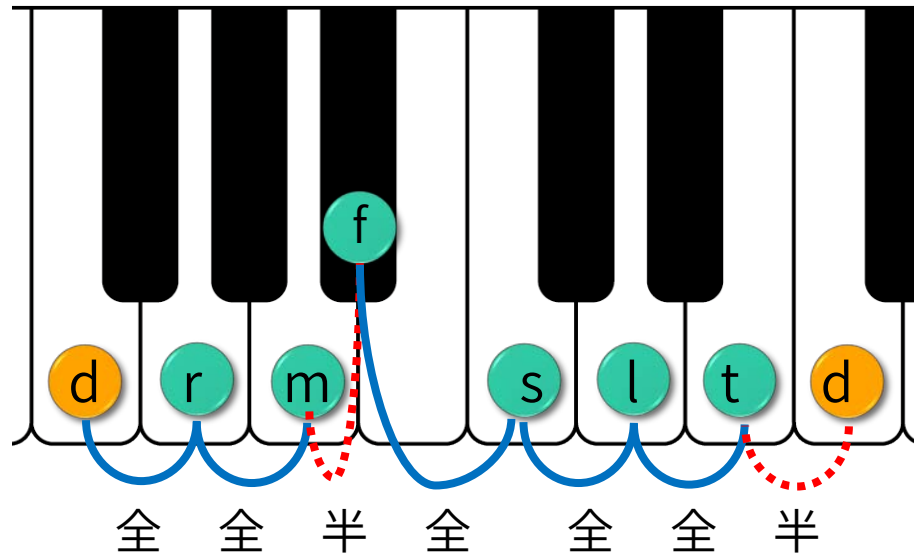
- 調に含まれる音にはそれぞれ役割(キャラクター)がある
 - ✓ 導音 = 主音の7度上(半音下)の音
 - 主音に向かう強い力をもつ重要な音(第3回参照)
 - ✓ 他にも、属音(主音の5度上)や下属音(主音の5度下)がある
- もっと簡単な方法は……?
 - ✓ イタリア音名による「移動ド(階名)」!

固定ドと移動ド

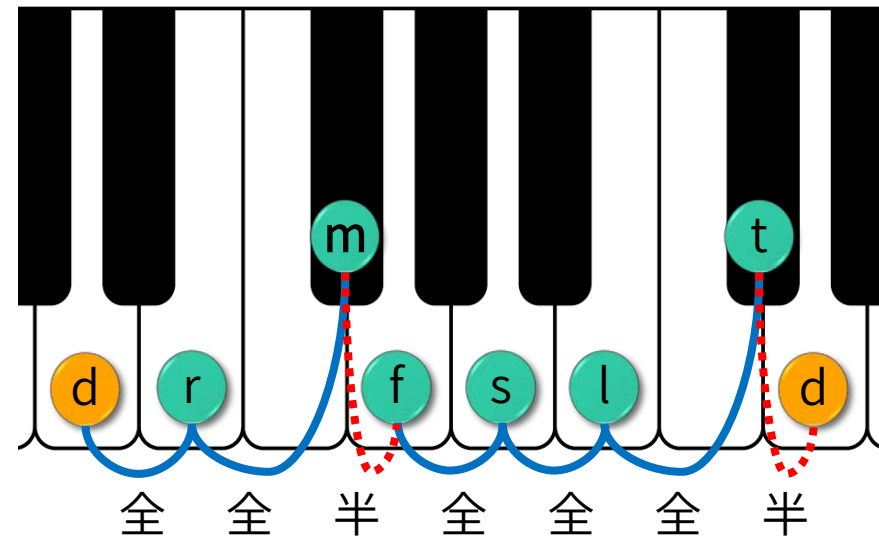
- 固定ド (絶対音名) = 調に関係なく同じ音なら同じ名前
 - ✓ ふつう、CやGといったドイツ音名で表す
- 移動ド = 調の主音を基準に呼び替える!
 - ✓ ふつう、イタリア音名で表す
 - ✓ d, r, m, …… のように頭文字のみを書くことが多い
 - 調から外れた音 (臨時記号の音) のみ、「di」のように語尾をつける
 - #なら語尾はi, ♭ならoとなる (第2回参照)

長調の移動ド

F-durの場合



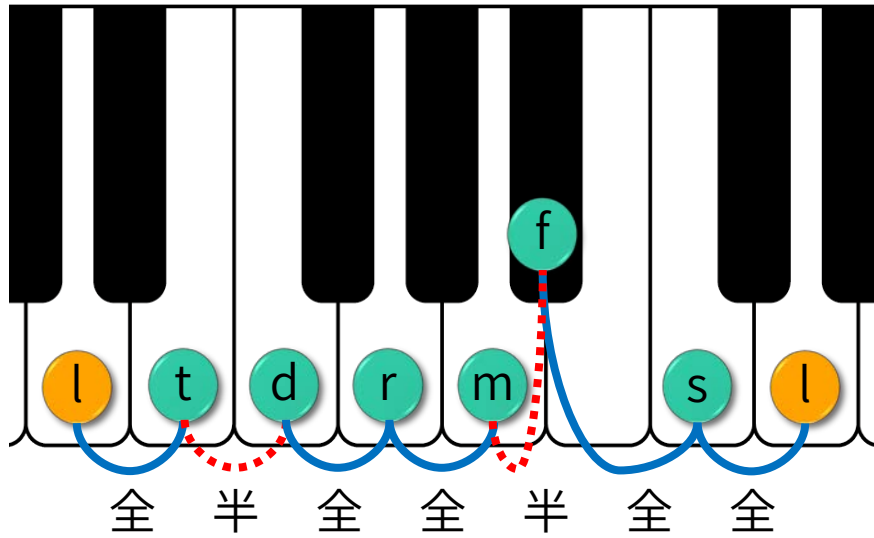
D-durの場合



- 長調の場合、主音を「do」とする
 - ✓ あとは順に re, mi, fa, …… とする

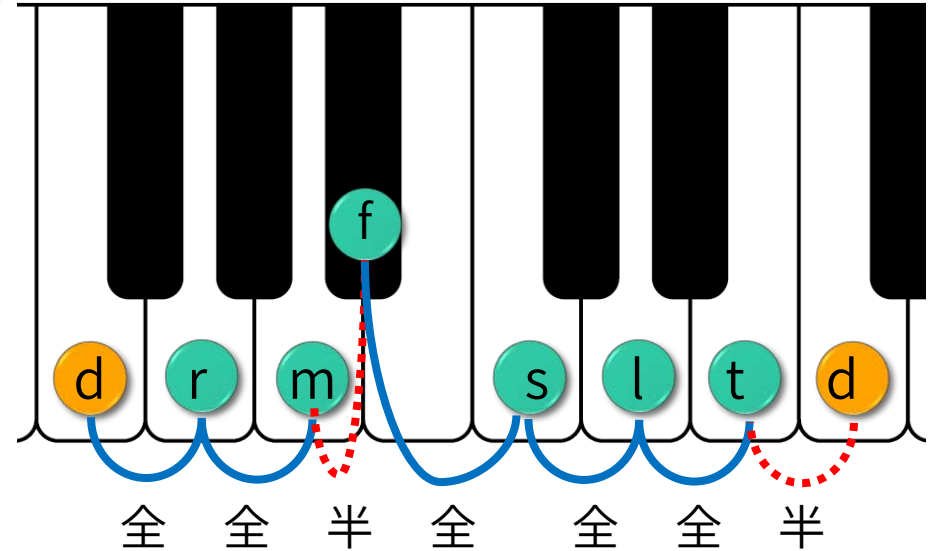
短調の移動ド

d-mollの場合



d-mollの
平行調

F-durの場合



➤ 短調の場合、主音を「la」とする

✓ こうすることで、平行調の移動ドが一致する!

Dは la Fは do
のように確かに一致!

譜例5-1の移動ド

d m s d t l s

f l d f l s f m

D-dur
主音D = do

臨時記号は調から外れた音を表す!
= 移動ドの語尾が変わる!

3 r r m fi s l t s d s l s m d

移動ドの効果

- 階名唱 = 移動ドを歌詞として歌うこと
 - ✓ これにより、調の中での音の役割(キャラクター)がつかみやすくなる
- 音のキャラクターとは具体的にどんなもの？
 - ✓ 次回述べる純正律と関係する
 - ✓ キャラクターを端的に表した「ハンドサイン」も存在

[参考] ハンドサイン

階名	キャラクター例1	キャラクター例2
do	力強く、堅固に	広がり続ける大地
re	活発に、希望に満ちて	高く
mi	安定して、穏やかに	ふわっと柔らかく
fa	寂しく、荘厳に	甘く切なく
so	雄大に、明るく	伸び続ける木
la	悲しく、涙ながらに	キャラクターなし
ti	鋭く、繊細に	doに向かって

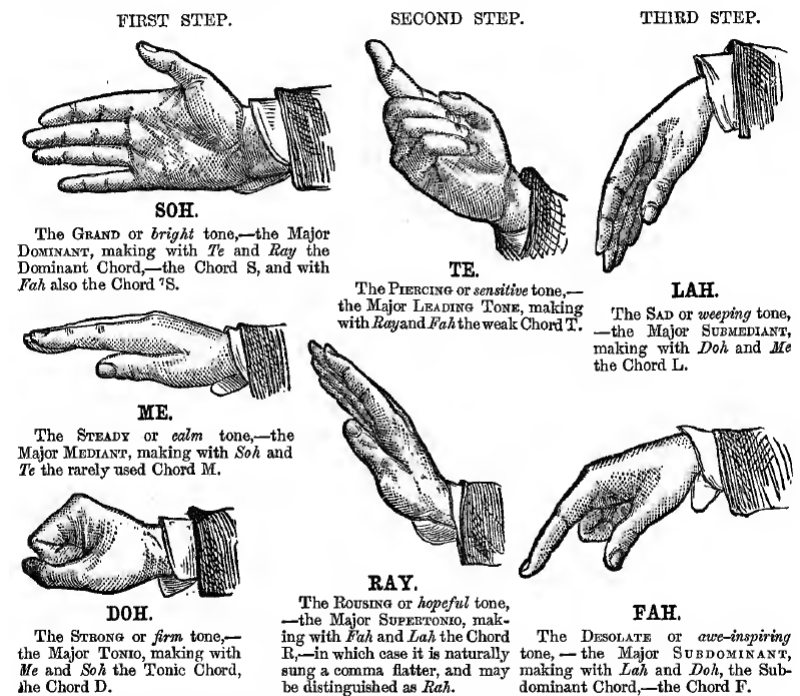
➤ John Curwenが考案したもの

✓ トニック・ソルファ法(第2回)の一部である

viii

MENTAL EFFECTS AND MANUAL SIGNS OF TONES IN KEY.

NOTE.—These diagrams show the hand as seen by pupils sitting on the left-hand side of the teacher. The teacher makes his signs in front of his ribs, chest, face, and head, rising a little as the tones go up, and falling as they go down.



*. For *fa* let the teacher point his first finger horizontally to the left. For *ta* ditto to the right. When seen by the class these positions will be reversed, and will correspond with the Modulator. For *se* let the teacher point his forefinger straight towards the class.

NOTE.—These proximate verbal descriptions of mental effect are only true of the tones of the scale when sung slowly—when the ear is filled with the key, and when the effect is not modified by harmony.

今回扱った内容

1. 移調 ～ 幅を変えずに主音を動かす
2. 調号と臨時記号 ～ 調性判断の基礎
3. 関係調 ～ 調の親戚
4. 調色 ～ 調のイメージ
5. 移動ド ～ 主音を基準に呼び替える

Next : #6 純正律と平均律 ～ うまくハモる音階